

CURES

NEWSLETTER

地域経済
ニュースレター

1996. 3. 31 No.37

巻頭言

環日本海学会と新しい地域研究

山村勝郎

環日本海地域の地域研究は、環日本海学会の設立により全国的組織を持つことになり、その第1回研究大会が昨年11月金沢で開かれた。この研究集会が日本海という特定地域を共通のテーマにした学際的な大会であったという点では、個別分野の学会の定期大会とは全く異なる特徴を持っている。特定地域の諸問題を共通の研究対象としたシンポジウムは、すでに日本でも各地で行われている。しかし環日本海学会の定期大会として今後毎年こう

いう研究集会を開催して行こうという計画の第一歩が踏み出されたということに各方面から期待が寄せられているようである。

というのは現在のところ日本の学術研究体制の中で「地域研究」という領域は末だ市民権を持っているとはいえない。1986年から日本学術会議第3部に地域研究体制研究連絡委員会が作られて、国内の地域経済研究の促進のみならず、いわゆる経済のグローバル化に伴って活発化してきた世界各地の地域研究に

- 巻頭言 山村勝郎
- CURES Report
 - 「『環日本海の戦後50年』の意義」 橋本哲哉
- Topic
 - 「ボランティア考」 的場信樹
- 地域経済文献情報

金沢大学経済学部

も活動視野を拡大し、国内国際を問わず地域研究の研究体制をどのように整備するかが検討された。この研連の共通認識としては「地域」という概念が、一定の領域を支配する国民国家とは異なった次元で国際社会に登場してきたことに、異なった社会体制を越えた自然地理的空間概念として地域という言葉が使われていること、単なる空間概念としてのみならず一定の自然環境の中に経済的、社会的、歴史的、民族の実体が含まれたものとして理解されていること、そして近代国家の中央集権的な管理社会の下では、生活の場としての地域社会の独自性があらゆる面で強調されてきたこと等々の要因から、学術研究においても各国別、各分野別の枠では包括できない「地域研究」の必要性があるという点にあった。ところが現在必要とされているような学際的、国際的地域研究は学術会議各部の専攻領域に分類された部門には入らないのである。在来の学問領域あるいは分類においては、地域研究は人文地理の一分野及び各国事情研究として位置づけられていた。第3部に属する既存の学会も、例えばアメリカ経済学会、EC学会、アジア政経学会、国内では九州経済学会、東北経済学会等々に分れている。しかしこの研連委員会では、国内・国外各地域研究で現在求められている研究体制や新しい広領域の核となるような方法論は生まれてこない。海外諸地域の地域研究は日本から見た日本的関心の強い研究であり、国内の地域研究も世界の中の日本の地域研究という観点を欠いているという点で限界を持っている。その他具体的研究方法として極めて多くの再検討課題が出されたが、今後の問題としては国内・国外を含めた共通した方法論的研究を深めることと地域研究体制の確立を一つ一つ着実に進めて行くことであった。国内については地域を

北方圏、南方圏、日本海圏、太平洋圏の4つに分類して、それぞれの圏域に地域研究の中心になるような組織が地元の推進力で生まれることが望ましい姿だというのが、研連が取り纏めた幾つかの提案の一つであった。

環日本海学会は、日本海をめぐる大きな国際環境の変化に伴って、国際的学術交流が国境を越えた地域交流の一環として日本海側各地で積み重ねられてきた実績を基底として設立されたものであるが、この時期はまた日本の学術研究体制の中での新しい地域研究のあり方が議論されていた時期でもあった。学会の設立は決して学術会議の主導で作られたものではないが、正に地域研究体制研連が数年にわたって提案してきた今後の新しい地域研究のあり方が、日本海圏で探求されて行くという意味で期待も大きいと思われる。環日本海学会は総合的・学際的領域にわたる学会として日本学術会議の中では現機構のいずれの部にも属さず、副会長直属の学会として位置づけられることが決まっている。新しい地域研究は日本の学術研究体制の中で市民権を得たのである。

なお、最近岩波新書版で出版された「環バルト海」は北ヨーロッパにおける地域協力を紹介した労作であるが、環バルト海における地域協力のあり方を紹介するのは「環日本海協力構想について展望をもつうえにも、何らかの参考材料を提供するのではないかと述べて、最終章は環バルト海と環日本海の地域協力を比較検討する記述にあてている。環日本海学会はまだ第1回の研究大会を終えたばかりだが、新しい時代の地域研究を創造していくために、研究体制の国際的連帯を視野に入れて行く必要があるだろう。

(環日本海学会副会長・金沢大学名誉教授・金沢経済大学学長)